激減し始めた群生地

加賀海岸のハマヒルガオ (石川県加賀市)

ハマヒルガオは、和名を浜昼顔で、ヒルガオの海岸版と言ったところ。加賀海岸の砂丘地には、かなり多く生育していた。過去形なのは、近年めっきり個体数を減らしているから。同所的に、有名なイソスミレもあり、こちらも個体数が激減している。イソスミレの原因ははっきりしている。人による乱獲と、上流ダムからの砂礫流出が無くなった事による遠浅の消滅が原因である。海岸が深くなった事によって、波が高くなり、砂丘に砂が吹き上がり、イソスミレが埋もれてしまう事にある。

ハマヒルガオはつる性なので、砂の堆積の影響を受けにくいと思われるが、なぜ激減したのであろうか。今から40年程前の1980年代、まだフィルム時代の事。砂丘地に入ると、何ヶ所もハマヒルガオの群生地があった。イソスミレ同様、あまりに個体数が多いので、かえって撮影意欲が湧かなかった記憶がある。撮影されたフィルムを見ると、能登の砂浜にも大群生があった。しかし、ここも近年極端に個体数を減らしている。

一説には、コマツヨイグサの進入によって阻害されるという。確かに人家に近いハマヒルガオの生育地にコマツヨイグサとハマヒルガオが同所的に咲いている。しかし、2019年に確認された群生地が2020年に消滅している場所では、コマツヨイグサは一本も確認されていない(下写真)。砂丘地の中ではコマツヨイグサはほとんど見られないので、加賀海岸での衰退の原因は他にあるのではと思われる。

佐賀県の唐津でもハマヒルガオが激減したとの報道がある。琵琶湖の今浜町の群生地も激減し、保護活動を行っている。どうもハマヒルガオの激減は、全国的に進行しているようだ。

2000年代前半から、アイスランドの氷河が急激に融け出した。この頃、筆者の周辺の里山から山野草が激減し始めた。地球規模の温暖化が、山野草の世界にも影を落とし始めているのは確かなようだ。

作品は、防波堤で砂の堆積から守られた一角に残っている群生地。ただこの地は、開発の波が迫っている。

加賀海岸のハマヒルガオ生育地。2019年撮影。2020年には消滅した。